

順位	氏名（議席）	発言の要旨
15	川窪 吉男（29）	<p>1. JR東田子の浦駅北口設置構想について</p> <p>私は市議会議員を拝命して以来、このテーマにつきましても、地域住民の皆様と対話を重ね、行政懇談会でも取り上げ、駅周辺の利便性や安全性向上に関する多くの意見を伺いました。また、元吉原地区のみならず、富士市東部地域の方々にも御意見を伺っております。駅というのは地域の重要な交通結節点であり、誰もが安心して利用できる環境に整備することは、地域活性化や住民福祉の向上にもつながると考えております。同様のテーマでは6回目の一般質問になりますので、文章に聞き覚えがあるところもあるかもしれませんが、御容赦いただきたいと思っております。</p> <p>JR東海道本線は明治22年2月に新橋駅－静岡駅間が開通しました。その年、鈴川駅（現在の吉原駅）が開業し、それから20年後の明治42年に隣りの富士駅が開業しました。大正になり元吉原村東部、吉永村、浮島村、原町西部の皆様もこの東田子の浦駅設置について鉄道当局に陳情しましたができませんでした。昭和に入り再度陳情しましたが、戦時中でもあり、建設できませんでした。その後、終戦を迎えた昭和23年に柏原駅新設期成同盟会が結成され、幾多の困難を乗り越えて昭和24年9月15日に東田子の浦駅と命名され開業しました。開業当時は北側には少し工場があったものの、ほとんどが田んぼや沼地であったようです。しかし、戦後の高度経済成長とともに工場が建設され、国道1号バイパスも通り、一般住宅も建ち、現在では大型スーパーや介護施設も建設されています。現在は1日1500人から1700人が利用していますが、この多くは家族の送迎での利用です。しかし、北口がないため、駅の東側の地下道を通るか西側の踏切を通り、両方とも一度旧国道1号に出ないと駅にたどり着きません。しかし、東側の地下道は、大雨のときなどは通行止めになることもあり、北口がないために皆さん日々苦勞しているのが現状です。また、朝の通学、通勤が重なり狭いロータリーは交通渋滞が発生し、近隣住民の日常生活にも支障が出ています。このテーマは地域の長年の悲願であります。そこでお伺いいたします。</p> <p>(1) 昨年11月定例会において、小長井前市長は「北口設置を実現できなかったことは大変心残りであり、議員はじめ地域の願いや思いを次期市長にしっかりと引き継ぐ」と答弁されましたが、どのように引き継がれたのか伺います。</p> <p>(2) 前市長からの引継ぎや利用状況を踏まえ、北口設置について行政としてどのように考えているか伺います。</p> <p>(3) 昨今の東田子の浦駅の利用状況をどのように捉えているか伺います。</p> <p>(4) 北口設置を実施する事業主体となるJR東海と、今後、どのように協議していくのか伺います。</p>